

全体的な計画・指導計画と保育所保育指針の「内容」の対応付け表の作成について

図1は乳児保育に関する対応付け表の例である。左に並んでいる項目は、生駒市立幼稚園・保育園・こども園教育・保育カリキュラム（生駒市教育委員会、生駒市教育部幼保こども園課作成。通称、園統一カリキュラム）の0歳児の年間計画の「内容」から取っている。一番上の行にある「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」は、保育所保育指針「第2章 保育の内容 1 乳児保育に関わるねらい及び内容」の3つの視点である。その下の①～⑤の数字は、「(2)ねらい及び内容 (イ) 内容」の番号である。例えば、「健やかに伸び伸びと育つ」の①は「保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活する」という事項を指している。

4～5か月の一番上の「やさしく声をかけてもらいながら、ゆったりとした雰囲気の中で、ミルクを十分に飲む。」という項目は、○が9個ついている。この○の意味は、「やさしく声をかけてもらいながら、ゆったりとした雰囲気の中で、ミルクを十分に飲む。」という経験する際に、子どもは保育所保育指針の「保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活する」という事項を含めて9の内容を経験するように計画しているということである。

期	内容	健やかに伸び伸びと育つ					身近な人と気持ちを通じ合う					身近なものに関わり感性が育つ				
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
4 ～ 5 か 月	・やさしく声をかけてもらいながら、ゆったりとした雰囲気の中で、ミルクを十分に飲む。	○		○			○	○	○	○	○	○	○			
	・立位で抱かれたり、腹ばいなどに体位をかえてもらったりして、手足などを盛んに動かして遊ぶ。															
	・身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感が芽生える。															
	・温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生える。															
	・声をかけると人の顔を見つめたり、動くものを追視したりする。															
6 ～ 8 か 月	・音の鳴る玩具で遊んでもらうと、音のする方に向いたり、玩具を手に持つと口に入れたりする。															
	・個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。															
	・一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に睡眠をとる。															
	・人見知りが始まり後追いをするなど、親しい大人に愛着を示す。															
	・喃語に込めた気持ちを受け止めてもらえた心地よさを感じる。															
・生活や遊びの中で様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付く。																

図1. 乳児保育に関する対応付け表の例

1歳児と2歳児に関する対応付け表を作る際は、期や内容を自園の年間計画から取り、一番上の行に「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5つの領域を示し、その下に「(2)ねらい及び内容 (イ) 内容」の番号に合わせて、①～⑦または⑥の数字を書くこと。

全体的な計画・指導計画と保育所保育指針の「内容」の対応付け表の提出に当たっては、自園の全体的な計画や指導計画を左に入れて対応付けをする。乳児保育については、各事項を縦に見て○が1つ以上付いていることが望ましい。1歳児と2歳児の保育については、2年間で、各事項を縦に見て○が1つ以上付いていることが望ましい。それが保育所保育指針で求められている経験を保証することになるからである。